

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

$L/K$  : 体の拡大

$$G := \text{Aut}(L/K) = \{\sigma \in \text{Aut}(L) \mid \sigma|_K = \text{id}\}$$

- $H \subset G$  : 部分群に対し、  
 $L^H := \{x \in L \mid \forall \sigma \in H : \sigma(x) = x\}$   
:  $H$  の**固定体 (fixed field)**
- $M : L/K$  の中間体に対し、  
 $\text{Aut}(L/M) = \{\sigma \in G \mid \forall x \in M : \sigma(x) = x\}$   
:  $L$  の  $M$  上の**自己同型群**

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

自明に

$$\text{Aut}(L/L^H) \supset H, \quad L^{\text{Aut}(L/M)} \supset M$$

ここで  $=$  が成り立つか？

一般には成り立たないが、Galois 拡大なら OK

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

自明に

$$\text{Aut}(L/L^H) \supset H, \quad L^{\text{Aut}(L/M)} \supset M$$

ここで = が成り立つか？

一般には成り立たないが、Galois 拡大なら OK

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

自明に

$$\text{Aut}(L/L^H) \supset H, \quad L^{\text{Aut}(L/M)} \supset M$$

ここで  $=$  が成り立つか？

一般には成り立たないが、**Galois 拡大**なら OK

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

“Galois 拡大” とは、

“ $\text{Aut}(L/K)$  が充分大きく、  
体拡大  $L/K$  を統制できる拡大”

**Galois 理論の基本定理**

||

**中間体と部分群との対応**

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

体の有限次拡大  $L/K$  が **Galois 拡大**



$$\#\text{Aut}(L/K) = [L : K]$$



$$L^{\text{Aut}(L/K)} = K$$



$L/K$  : 正規拡大 かつ 分離拡大

この時、 $\text{Aut}(L/K) = \text{Gal}(L/K)$  と書き、

$L/K$  の **Galois 群** と呼ぶ

## 有限次代数拡大の基本的な不等式

$L/K$ : 有限次 (代数) 拡大

$K \subset L \subset \Omega$ : 代数閉体

$$\#\text{Aut}(L/K) \leq \#\text{Emb}_K(L, \Omega) \leq [L : K]$$

左の等号  $\iff L/K$ : 正規拡大

右の等号  $\iff L/K$ : 分離拡大

## 有限次代数拡大の基本的な不等式

特に  $L = K(x)$  : 単拡大のときは、

$f(X) := \text{Irr}(x/K; X) \in K[X]$

:  $x$  の  $K$  上の最小多項式とすれば

$$\#(\text{Conj}(x, K) \cap L) \leq \#\text{Conj}(x, K) \leq \deg f$$

左の等号  $\iff \text{Conj}(x, K) \subset K(x)$

$\iff K(x)/K$  : 正規拡大

右の等号  $\iff f$  の根の個数が  $(\deg f)$  個

$\iff K(x)/K$  : 分離拡大



## Galois 理論の基本定理

$L/K$ : **Galois 拡大**、 $G := \text{Gal}(L/K)$ : **Galois 群**

$\mathcal{H}_G := \{H \mid G \text{ の部分群}\}$

$\mathcal{M}_{L/K} := \{M \mid L/K \text{ の中間体}\}$

$$\begin{array}{ccc} M & \longmapsto & \text{Aut}(L/M) \\ & & \Phi \\ \mathcal{M}_{L/K} & \xleftrightarrow{\quad} & \mathcal{H}_G \\ & & \Psi \\ L^H & \longleftarrow & H \end{array}$$

## Galois 理論の基本定理

- $\Phi, \Psi$  : 共に全単射で、互いに逆写像  
( $\Phi \circ \Psi = \text{id}_{\mathcal{H}_G}, \Psi \circ \Phi = \text{id}_{\mathcal{M}_{L/K}}$ )
- $\Phi, \Psi$  : 共に包含に関して順序逆同型  
( $H_i \rightsquigarrow M_i$  のとき、 $H_1 \subset H_2 \Leftrightarrow M_1 \supset M_2$ )

“中間体と部分群とが一対一対応”

Galois 対応  
(Galois correspondence)

## Galois 理論の基本定理

- $\Phi, \Psi$  : 共に全単射で、互いに逆写像  
( $\Phi \circ \Psi = \text{id}_{\mathcal{H}_G}, \Psi \circ \Phi = \text{id}_{\mathcal{M}_{L/K}}$ )
- $\Phi, \Psi$  : 共に包含に関して順序逆同型  
( $H_i \rightsquigarrow M_i$  のとき、 $H_1 \subset H_2 \Leftrightarrow M_1 \supset M_2$ )

“中間体と部分群とが一対一対応”

**Galois 対応**  
**(Galois correspondence)**

## Galois 理論の基本定理

- $H_i \leftrightarrow M_i$  のとき、
$$H_1 \cap H_2 \leftrightarrow M_1 M_2$$
$$\langle H_1, H_2 \rangle \leftrightarrow M_1 \cap M_2$$
- $M \in \mathcal{M}_{L/K}$  に対し、 $L/M$  : **Galois** で、 $\text{Gal}(L/M) = \Phi(M)$
- $\forall \sigma \in G$  に対し、
$$\sigma H \sigma^{-1} \leftrightarrow \sigma(M)$$
- 特に、 $H \triangleleft G \iff M/K$  : **Galois** で、この時、 $G/H \simeq \text{Gal}(M/K)$

## Galois 拡大の特徴付け

体の有限次拡大  $L/K$  が **Galois 拡大**



$\exists f(X) \in K[X] :$

- $f$ : 分離的 (重根を持たない)
- $L = \text{Spl}(f/K)$  ( $K$  上の  $f$  の最小分解体)

この時、 $\text{Gal}(L/K) = \text{Gal}(f/K)$  であった

構成問題では、**Galois 拡大は、**  
多項式の最小分解体として与えるのが通常

## Galois 拡大の特徴付け

体の有限次拡大  $L/K$  が **Galois 拡大**



$\exists f(X) \in K[X] :$

- $f$ : 分離的 (重根を持たない)
- $L = \text{Spl}(f/K)$  ( $K$  上の  $f$  の最小分解体)

この時、 $\text{Gal}(L/K) = \text{Gal}(f/K)$  であった

構成問題では、**Galois 拡大は、**  
多項式の最小分解体として与えるのが通常

## 方程式論としての Galois 理論

### (根の置換としての Galois 群)

$f(X) \in K[X]$  : 分離的 (重根を持たない) で  
monic な  $n$  次多項式

$W := \{w \in \bar{K} \mid f(w) = 0\}$  :  $f$  の根全体  
 $=: \{w_1, \dots, w_n\}$

$$f(X) = \prod_{i=1}^n (X - w_i)$$

$f$  の  $K$  上の **Galois 群**  $\text{Gal}(f/K)$  :

“ $f$  の根  $w_i$  達の満たす  $K$  係数の関係式を  
保つような根の置換” 全体の成す群

## 方程式論としての Galois 理論

### (根の置換としての Galois 群)

$R := K[X_1, \dots, X_n]$  :  $n$  変数多項式環

$\varphi : R \longrightarrow \bar{K}$  : 環準同型

$X_i \longmapsto w_i$

$I = I(f/K) := \text{Ker}\varphi$

: “ $f$  の根  $w_i$  達の  $K$  係数の関係式” の ideal

$\text{Gal}(f/K) := \{\sigma \in \mathfrak{S}_n \mid \sigma(I) \subset I\}$

:  $f$  の  $K$  上の **Galois 群**



## 体拡大の Galois 群との関係

$L := \text{Spl}(f/K) = K(W) = K(w_1, \dots, w_n)$   
:  $f$  の  $K$  上の最小分解体

$\text{Gal}(L/K) := \{\sigma : L \rightarrow L \mid K\text{-同型}\}$   
: 体拡大  $L/K$  の **Galois 群**

$\sigma \in \text{Gal}(L/K)$  は根の置換を引き起こす

$$\text{Gal}(L/K) \subset \mathfrak{S}(W) \simeq \mathfrak{S}_n$$

$$\text{Gal}(L/K) = \text{Gal}(f/K)$$